

社会福祉学専攻の 卒業後の進路は？

社会福祉学専攻の学生は、どんなところに就職していくのか、卒業生の声とともにご紹介します。

社会福祉学専攻 卒業生の進路

種別	例（業種、職種など）	割合（およそ）
社会福祉法人 福祉関係施設	・児童分野・障害分野・高齢分野などの施設の相談員や介護職 ・社会福祉協議会（様々な福祉サービスや地域の特性を生かした事業を行う福祉団体）	38%
病院	医療ソーシャルワーカー	9%
福祉系企業	福祉機器・福祉用具メーカー、企業が運営する施設の介護職など	9%
一般企業	商社、メーカー、銀行など	34%
公務員	法務省、市役所、警察、消防など	9%
進学	大学院	1%

福祉系はもちろん、一般企業や公務員など幅広く目指せます！

主な就職先

福祉系

豊田市社会福祉協議会	尾張旭市社会福祉協議会
藤田医科大学病院	名古屋記念病院
社会福祉法人紫水会	社会福祉法人和敬会
社会福祉法人むそう	社会福祉法人元気寿会
社会福祉法人福寿園	NPO法人ユートピア
豊田市福祉事業団	など

一般企業・その他

東海旅客鉄道	東芝	ニトリ	三菱UFJ銀行
瀬戸信金	愛知県庁	名古屋市消防局	
豊田商工会議所	東建コーポレーション		
東京ベイホテルズ	富山銀行	フランスベット	
一条工務店	積水ハウス	JTB東海	
アイリスオーヤマ	パロマ		など

～卒業生の声～



橋本 恒作さん
【名古屋市社会福祉協議会】

名古屋市社協で働きたいと思ったのは、実習をしたことがきっかけです。恥ずかしい話ですが、元々実習を始める前までは、社協の仕事についての勉強をほとんどしていませんでした。そんな中社協で実習をして、地域をよりよくするために、地域の方と一緒に考え取り組んでいく楽しさがあると確信しました。

社協って何をやっているの？という人は多く、世間的な認知度はまだまだ低いかと思います。そのため皆さんにも、社協の仕事ってこんなにやりがいがあるんだということを知っていただければと思います。

アプローチによって、本人の環境が好転した時です。地域から孤立している高齢者の方は、人生史から築き上げた価値観によって、私たちも想像し得ぬ生活している方が多くいます。中には、一年間アプローチをしてやっと心を開いてくれるようになったケースもあります。そういった一つのケースと向き合い、試行錯誤してチームや地域で対応していく中で、その人を取り巻く環境が好転したときにやりがいを感じます。

名古屋市社協では、多くの職場があります。区の社協やいきいき支援センター（地域包括支援センター）、権利擁護センター、児童館、認知症相談支援センターなど、分野が異なる様々な職場で働く中で、多くの経験を積みステップアップしていくことができると感じています。



南 俊太郎さん
【東京都庁 福祉職】

学生時代の私は“人との直接的な関わりの中で福祉に携わりたい”、“大きな組織のなかで高いモチベーションを持って働いてみたい”とぼんやりと考えていました。東京都で福祉職での採用者は主に“児童相談所で児童福祉司として児童に関する様々な相談援助”、“都立病院でソーシャルワーカーとして患者に対する相談援助”など、配属先に応じて行う業務は多岐に渡ります。

私は現在、都立病院でソーシャルワーカーとして勤務しています。支援を必要としている患者さんでも、一人一人大切にしている価値観や、これだけは譲れないというもの、生活歴等様々です。患者さんが退院後にどのような生活をしたいか、何を不安に感じているのかを色々な角度からの視点を持ちつつアセスメントすることで、医師や看護師だけでは気づかない点に気づくことができるのがソーシャルワーカーとしてのあるべき姿だと感じています。

数年毎に局内の異動だけでなく、局間での異動も経験でき、幅広い視野を獲得することで自身のスキルアップにも繋がると感じています。都庁は自治体としても大きく、主要都市でもあることから職員の数も多く、職種も多種多様です。職場を越えた職員同士の関わりも持つことができるため、刺激も多く、高いモチベーションを持って働くことができていると感じています。



野澤 佑太さん 【名古屋市役所】

私が福祉を学ぼうとしたきっかけは、祖父母の老老介護を目の当たりにしたことです。私は特に何もしてあげられず、心残りがありました。中京大学では社会福祉士課程を選択しましたが、社会福祉を専門とした職に就こうとは特に考えておらず、自分の心残りを払拭したいこと、そして福祉制度などを学んで得た知識が将来的に役に立てばいいなという程度でした。

しかし社会福祉実習や障がい当事者の方々との関わりを通じて、福祉制度だけを学ぶだけでは知ることのなかった福祉現場の実情を知りました。その経験から、今度は自分自身が地域の中で福祉に携わりたいと考えるようになりました。

名古屋市役所を志望したのは、生まれ育った名古屋で働きたいという思いと、行政として地域福祉に携わることができると思ったからです。名古屋市には採用試験区分に「社会福祉」という区分があったため、大学の社会福祉士課程で学んだことが有利に働きました。

今は高齢者の生きがいづくりなどを主に考え、高齢化などの課題を把握しながら、それに対応する制度構築や事業検討をしています。行政の仕事は目に見えてすぐに結果が出るといったことはあまりありませんが、少しずつでも地域福祉の向上に役立つのであれば、それがやりがいに繋がると思います。市役所の仕事は幅広く、制度構築や事業検討を行う部署もあれば、区役所など市民と直接接する部署もあります。それぞれの部署で違ったやりがいがあるとともに、ワークライフバランスの取り組みも推進されているため、働きやすい環境だと感じています。



伊藤 成美さん 【岐阜県立多治見病院】

「人と密に関わる仕事がしたい」「人の役に立てるような仕事がしたい」これが、私が福祉を学ぼうと思ったきっかけでした。大学に入学する前は「福祉＝介護」というイメージが強く、高齢者との関わりこそが福祉だと思っていました。しかし、様々な講義をうけていくなかで地域福祉、児童福祉、医療福祉など、福祉には幅広い分野があるということを知りました。そこで私が興味を持ったのが医療福祉の分野でした。医療専門職が中心となる病院という世界で、福祉の専門職である社会福祉士がチームの一員として活躍しているということにとっても魅力を感じ、大学3年時にMSWへの道へ進むと決断しました。

MSWという仕事は、病気やけがで入院している患者さんご家族に寄り添いながら、退院後の療養先を安心して決められるよう当事者と併走していく職業だと思っています。しかし急性期病院のMSWとなると、入院期間が短いという面から短期間で関わりが多くなってしまうのが現状としてあります。実際に急性期MSWとして入職して3ヶ月になりますが、短い期間で関係性を構築することに苦戦し、うまくアプローチすることができないこともたくさんあります。そんな中でも、退院時に「ありがとうございました」「とても助かりました」と感謝の言葉をいただくことがあり、微力ながらもお役に立てたということに喜びを感じることも何度かあります。

人の人生に深く関わるため、とても責任の重い仕事ではありますが、その分やりがいも多く自分自身が成長できる部分がMSWの魅力だと思います。



岡田 晴花さん

【株式会社 八神製作所】

私が福祉用具に関する仕事があると知ったのは、福祉用具専門相談員の方が大学の講義に来てくださり、様々な福祉用具について教えて下さった事がきっかけでした。そして、大学3年生で特別養護老人ホームでの実習に行った際に、施設に入居されている利用者の方々が様々な種類の車椅子や歩行器、杖などの福祉用具を使用されているのを見て、福祉用具はとても大事な存在であるという事を知り、また福祉用具を通じて高齢者や障害者の方々の生活を支える仕事に興味を持ちました。

私は現在、ストーマ(人工肛門)の部署を担当しており、お客様の役に立つ事ができ、お客様に「ありがとう」と言って頂けた時にやりがいを感じます。福祉用具に関しても、歩行器一つにも様々な形や種類があります。利用者の体の状態で合うもの合わないものがあり、合わないものを使用すると逆に今まで出来ていた事まで出来なくなってしまう可能性もあるので利用者の体の状態をしっかり見て福祉用具を選定する事が大事です。

先輩が福祉用具を選定し、お客様の体の状態に合うものを使用された際に背筋もすごく伸び、スムーズに歩かれているのを見た時は本当にすごいなと感じました。お客様もとても笑顔で帰られました。福祉の仕事は人と関わり、人の生活を支える事が出来るという所がとても良いところだと思います。



千熊 剛さん

【社会福祉法人 リガーレ福祉の架け橋】

福祉の仕事は、生活に困っている人、支援を必要とする人が対象です。どんな状況でも自分の価値観にとらわれず、まずは本人・家族の声を傾聴することが大切だと思います。また、様々な不安や心配事を抱えて相談にいらっしゃるの、表情や話し方に注意し、少しでも安心してもらえるような雰囲気づくりを心がけています。

好きなことは人それぞれで、勉強やサークル、アルバイト、遊びなど何に力を入れるかは自由だと思います。伝えたいことは、失敗を恐れず様々なことにチャレンジして、視野を広げてください。小さなことでもいいので、しっかり目標を持ち、学生という貴重な時間を過ごしてほしいです。

福祉の仕事は、本当に奥が深いです。これから福祉を学ぼうと考えている人、福祉の仕事に就こうか考えている人、何となく福祉に興味がある人…、福祉の仕事は生活に直結しているので、難しい反面やりがいも大きいです。私自身、未だに仕事は分からないことが多い状態ですが、向上心を持ってひたむきに取り組み、地域の高齢者に貢献できるよう努めたいです。



山田 賢さん
【豊田市役所】

大学に入学したのの私に「福祉を学ぼう！」という熱い気持ちがあったわけではありませんでした。仲の良い友達が誘ってくれたのと「福祉分野なら就職に困らないかな～」という軽い気持ちの本音です。しかし、勉強してみると、イメージしていた「福祉」の概念とは異なり、児童・高齢・障がい・地域福祉など様々な「福祉」があるんだなと感じました。

就職してからは法律や制度などより幅広い視点が求められ、奥の深い分野だと思います。関わるケースが全てハッピーなケースとは限らず、自分の思うようにいかないことの方が多いですが、「人と関わることが好きな人」「人のために何かしたい」という方にはオススメの分野です。

市役所の仕事のやりがいは、「自分の仕事が直接市民の生活に影響を与え、市民のリアクションを直接感じ取ることができること」です。それは市民と「Face to Face」の関係だからこそ！市民の方が本当に困った時に頼りにしてくれるのは市役所です。

そんな時こそ市役所が親身になって話を聞いて、的確な対応を取らないと市民の期待を裏切ってしまうことになります。そんな責任とプレッシャーを感じながらの仕事ではありますが、市民から「ありがとうございます」と言ってもらえることが自分の仕事のモチベーションに繋がります。



中原弘美さん
【特定非営利活動法人 ふみだす】

3年生の実習をきっかけに、重度の知的障害を持った方が通う生活介護事業に行き、そこで今までの人生で感じたことのない、言葉では表せないような魅力を感じました。私は、不思議な魅力をもった重度の知的障害の方の支援を行いたいのだということに気づくことができました。利用者の方が訴えていることはなんだろうと考え、推測し、支援を行い、それが利用者の方にとってよい支援で、嬉しそうにされた瞬間に、とてつもないやりがいを感じます。

私自身、大学1年生までは福祉に関係した仕事をしようかなあとざっくりした気持ちで日々を送っていました。まだ福祉で何をしたいか決まっていない方は、さまざまな分野の福祉事業にいてみるいいと思います。私はヘルパーのアルバイトもしました。お金も稼げて、勉強にもなるので一石二鳥になると思います。

ボランティアやアルバイトをしているうちに、自分に合う分野がわかってくると思います。分野ごとにちがった魅力があります。

自分に合う分野を見つけて、ぜひ、福祉の仕事に就いてみてください。楽しいですよ！